

事業年度：令和元年度

事業テーマ：粉体塗装ライン導入による生産性の向上と環境負荷低減の両立

企業概要



主に自動車の内装および外装の樹脂部品の精密塗装を手掛けており、建材や金属の塗装も行っている。さらに、塗装後の部品組み立てやインキを転写して被印刷物に印刷するバット印刷も提供する。地域の商工会、工業団地等との企業間協力にも積極的に取り組む。長年にわたり培った技術と経験を活かし、高品質な製品を提供することで、多くの顧客から信頼を得ている。

株式会社 SAKAE

代表取締役 佐藤貴寿

1974年10月

〒252-0821
神奈川県藤沢市用田
284

17人

300万円

0466-48-5675

その他の製造業

▶ WEBサイト

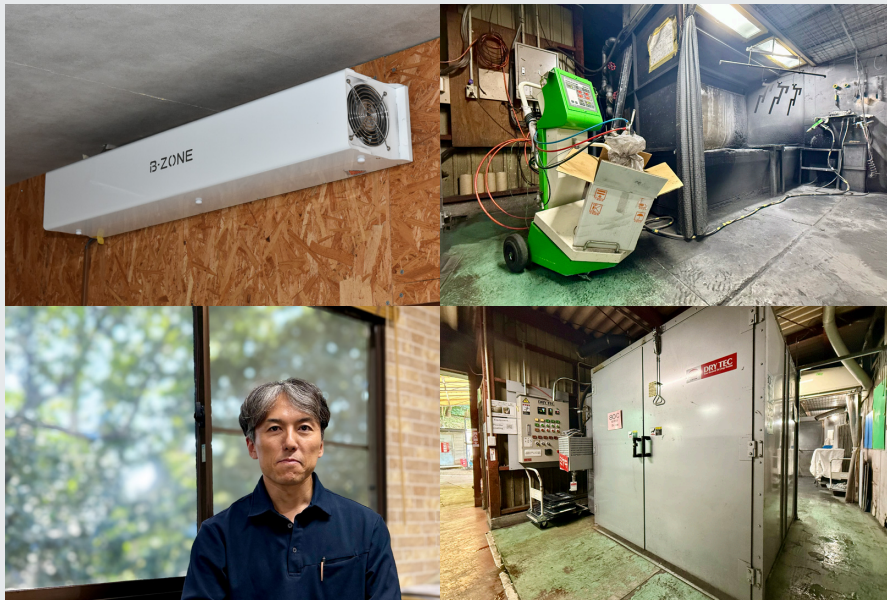


取材の現場から

溶剤塗料を担当していた職人が粉体塗装の導入後も即座に対応し積極的に取り組んでいる点は、同社の強みと言える。溶剤に比べ粉体塗装はその特性から作業効率が大幅に向上し、職人たちにとってもメリットも多い。粉体塗装の受注増加への要望も高いという。こうした職人たちのスキルアップへの意欲と、技術導入を進める柔軟な組織体制が競争優位を支えている。



導入した粉体塗装用のガンによる作業の様子 作業効率が大幅に向上



右上/グリーンの設備から静電気を発生させ粉体を送り出す 右下/導入した最新式の排熱回収型ガス熱風乾燥システム 左上/粉体塗装による空気清浄機 左下/代表取締役の佐藤 貴寿氏

事業者名：株式会社SAKAE

Case 4

塗装工程を短縮化する粉体塗装ラインの導入による作業効率の向上

自動車内装部品の塗装を手掛けてきたが、コロナ禍の影響で自動車関連の受注が減少した。これを機に、新たな技術「粉体塗装」の導入を決断。作業効率と環境負荷を大幅に改善した。新技術に対する職人たちの柔軟な対応力により、競争優位を強化している。

静電気によって粉末が表面に付着するので、両面の塗装をしながら細いエッジ部も自然に塗装される

補助事業のきっかけ

・自動車樹脂部品塗装（溶剤塗装）の売上比率が高く、職人の経験と勘に頼る部分が多かった。技術的に難しい作業であり、作業工程の改善の必要性が高まる中、コロナ禍になり、自動車関連企業の減産が続き事業継続性のリスクが顕在化した。
・環境問題への意識の高い企業からは、VOC（有機溶剤）、二酸化炭素削減への取組みが求められており、環境負荷軽減は取り組むべき課題となっていた。

事業計画の概要

・VOCを含まない粉体塗装工程の導入による新たな生産方式の構築を計画した。粉体塗装設備と、塗装後の製品を焼き付ける最新式の排熱回収型ガス熱風乾燥システムを導入し、環境負荷の軽減にも取り組んだ。
・当社のスローガンの一つに『目指せ!!現役80歳』とあり、溶剤塗装よりも作業性が良い粉体塗装を導入することにより、高齢者でも働ける生産現場づくりを目指した。

事業化状況

・自動車業界のみならず、空気清浄機や屋外製品など、幅広い分野への展開を進めている。コロナ禍で増えた空気清浄機の需要が一巡し、新規受注獲得を目指している。

地域のニーズに応えて決断

当社は創業から40年以上、主に自動車の内装部品やプラスチック部品の塗装を手掛けています。製品の表面を美しく、そして力強くコーティングする塗装に貢献してきました。しかし、コロナ禍で自動車関連の受注が減少し、事業環境は大きく変化しました。ちょうどその頃、商工会で縁ができた会社から「空気清浄機のカバーを、できれば粉体塗装でお願いできないか」との要望を受けたのです。それまで塗装は溶剤を使っていましたが、コロナ禍の今だからこそ投資をするべきなのかもしれないと、補助事業で粉体塗装ラインを導入することを決断しました。粉体塗装をしている会社はまだ少ないので、粉体の塗料を小ロットで注文することは難しいのですが、近隣の塗料会社が小ロットからでも色を調合してくれることになり、背中を押されました。

粉体塗装は、これまでの溶剤塗装とは異なり、静電気を利用して塗装する技術です。板金ものであれば平面を塗装しながら、厚みのある細い面も塗装されるので、作

業効率が大幅に向上しました。粉体塗装の導入後、職人技が必要な溶剤塗装と比較して作業負担の軽減が実現できています。また、環境負荷が低く危険物としての取り扱いが不要なため、危険物倉庫に保管する必要がありません。作業現場の安全性も改善されました。導入当初は、作業工程の調整に時間がかかり、軌道に乗るまで約3ヶ月を要しましたが、現在では生産ラインが安定し、効率的な製造ができるようになっています。

人にも環境にも優しい技術

従来の溶剤塗装と比較しても、粉体塗装は作業工程が短縮されるため、同じ時間でより多くの製品を塗装することが可能です。さらに、塗装面は膜厚が厚いため、屋外での耐久性が高く、長期間にわたり優れた性能を発揮します。粉体塗装は環境にも優しく、これから主流になる塗装方法だと考えています。当社では、溶剤、粉体どちらも請け負える体制が整っていますが、粉体塗装を担える会社はまだ少ないので、その良さや可能性などをお伝えしつつ、営業活動にも力を入れています。